

第6回東名遺跡整備指導委員会 議事録

【開催日時】

令和7年2月18日（火）14時00分から16時30分

【開催場所】

佐賀市立金立公民館集会室

【出席者】

〔委員〕本中 眞・小畑弘己・金原正明・赤司善彦・三島伸雄・重藤輝行・有岡大介

〔事務局〕（文化財課副課長）角信一郎

（史跡整備係）西田巖・古賀章彦・馬場晶平 （調査係）紺野佑介

〔助言者〕（文化庁文化資源活用課）小野文化財調査官

（佐賀県文化財保護・活用室）渋谷係長

〔オブザーバー〕（佐賀河川事務所）堤建設専門官

〔関係者〕（佐賀土木事務所）川島副所長・野田主任主査

（NPO 東名縄文の会）藤原事務局長

（佐賀市建築住宅課）古賀副課長・中島主査

（佐賀市道路整備課）北村主査 （佐賀市河川砂防課）野田技師

【内 容】

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議事

（1）第5回委員会での主な意見とその対応について

（2）東名遺跡ガイダンス・埋蔵文化財センター施設運営コンセプトについて

（3）地域力を使った仕組みづくりについて

（4）東名遺跡ガイダンス・埋蔵文化財センター建築実施設計について

（5）東名遺跡屋内展示実施設計について

（6）今後のスケジュールについて

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 議 事

(1) 第5回委員会での主な意見とその対応について

【資料1を基に説明】

【質疑応答】 ●…委員 ○…事務局

※質疑無し

(2) 東名遺跡ガイダンス・埋蔵文化財センター施設運営コンセプトについて

(3) 地域力を使った仕組みづくりについて

【資料2・3を基に説明】

【質疑応答】 ●…委員 ○…事務局

●：コンセプト、なるほど良いアイデアだと思うところもあるが、「こうこがく」「こうこんがく」という音がどうもピンと来ない。もう少し良い音がないかと思って、「こ」でいろいろと漢字を調べてみたが、なかなか良いのがなかった。意味としては、古いと今で良いのだが、音が少し違うような気がした。

それから、地域力を活かした仕組みづくりは、とても良いと思う。もう既に動き出しているということで、取り組みが進んでいてすばらしいと思う。いろいろなイベントを行う上で、なかなかアイデアが出てこないのも、「成功しているところのまねをすれば良い。」と最近良く言っている。みんなで見に行き、ディスカッションすれば、それが一番早いのではないかと、手っ取り早い方法ではあるが、そういうことも考えていただければと思う。

●：「こうこんがく」というのは音がちょっと、なかなか発音がしづらいのではないかと、耳慣れないというお話が1点。そして、他の施設に行ってみてみんなで議論し合って、意見交換をすればもっと良いものが出てくるかもしれない。そういう効果があるのではないかと、いう指摘だった。

●：先ほど指摘のあった語韻がということだが、確かにコピーに関わる人間からすると物足りなさがあるかもしれない。事務局に確認だが、このコンセプトは内部の運営についてのものだと思うが、対外的にも積極的に出していくのか。

○：一応運営のコンセプトで、基本的には運営に関わる関係者の行動指針、目標のようなものとして設定している。このコンセプトだけを表看板のようにどんどん対外的に出していくということではないが、例えば名刺に添えてみたりなど、広報のツールとして使っていきたいと思っている。

●：そうであれば、兼ね合いにもよるが、ブラッシュアップの余地はあるかと思う。内部で、例えばこれからイベントの企画や、カフェの運営法などについて考える時は、コンセプトができて分かりやすくなるのかなと思った。

それと、ワーキンググループで一番懸念されるのが、話をして地元の人たちの意見を吸い取ったから終わりというケースになりがちだったり、場合によっては、ガス抜きのような場所になってしまったりすることがあるので、できれば具体的な活動やイベント、さらに情報発信など、あと開館まで3年しかないので、何らか具体的にコミットするやり方を考えてほしい。そういったことまでスケジュールに見えないといけない時期ではないかと思う。

○：新たにいろいろな分野の方にワーキンググループに参加してもらい出したのが1月頃からなのでこれからだとは思いますが、具体的にみんなで一緒に行えるような取り組みや、イベントが定期的にあった方がまとまりやすいだろうから、そういったことも含めて具体的なスケジュールを考えていきたいと思っている。

●：「考古学」「考今学」とあるが、「考今学」というのは少し耳慣れないと思うが、何か他に使われてきたような経緯はあるのか。昨日の事前説明の時に、京都計画や奈良計画の策定に関わった京都大学の西山卯三さんが「考今学」という言葉を使用されていたというふうに聞いたが、他に誰か使用しているということはないのか。

○：調べた限りでは、その方だけのようだ。

●：既に先例があるということだが、その後使われていないので、発掘をして使いたいということか。

○：そのとおりである。

●：このキャッチコピーはある意味、この施設のミッションになるということで良いか。ワーキンググループなどの仕組みづくりや方向性、ある意味、戦略というか、戦略に位置する、ミッションと戦略の関係として捉えて良いのか。

○：そう考えていただいて支障ないと思う。

●：了解した。このキャッチコピーはコピーライターの方の意見も踏まえて考えられたということで、非常にシンプルで、よくでき上がっているのかなと思うが、さらにプロセスを経てブラッシュアップしていくということだろう。

(4) 東名遺跡ガイダンス・埋蔵文化財センター建築実施設計について

【資料4を基に説明】

【質疑応答】 ●…委員 ○…事務局

●：県道の敷設で2点聞きたい。1点目は、県道にフェンスのある歩道をつくるのかどうか。それから、この周辺はどれくらいの交通量を想定しているのか、歩道が敷設されると安全性は確保されるが、そうでなければ、施設の周囲を歩く時に危険ではないのかと

いう懸念があって質問した。

- ：歩道については、残念ながら施設の反対側についており、施設側には歩道がつかない予定なので、飛び出しなどの危険性がある。そのため施設の周囲には柵を設けることにしている。
- ：周囲の交通量は分かるか。
- ：現状だと通勤時間帯がやや交通量が多いようだ。信号が無く渋滞することはないが、結構スピードを出す車が多い。道路整備後は三叉路になるため、危険性も高く、信号を付設してもらえるように警察に要望していきたいと思っている。
- ：できるだけ交通の安全確保に寄与していただいて、歩道があるとか、人が沢山いるとか、注意喚起する表示を設置するように配慮してほしい。最近、自宅の近くにバイパスができて、近道を探して、今まで車が通っていなかった道をどんどん車が走るようになった。将来的に周辺に大きな道路ができたり、アクセス道ができるなどといった計画はないか。交通量が増える懸念として大丈夫か。
- ：今回整備される県道は、南側にあるバイパスから真っ直ぐ北に延びてくる計画なので、今よりは交通量が増えると思う。一方で、この施設へのアクセスもかなり良くなる。
- ：施設前の交差点に横断歩道や信号が付けば、多少は緩和されるということか。
- ：この交差点に横断歩道を付設するためには、信号機の設置が必須である。
- ：それはまだ県警と話をしていないのか。
- ：12月に一度協議をしている。信号を敷設するには、道路が開通して交通量を見ないと判断ができないということだった。ただ、それでは間に合わないので、事前に要望をしていきたいと思っている。
- ：これに関して、佐賀土木事務所から何かコメントできることはないか。
- ▲：施設前の三叉路の信号設置に関しては、今のところ警察と協議中だが、決定していない。県警からは開通した後の様子を見てからという回答をいただいているのが現状である。
- ：事故が起こってからでは遅いように思うが、シミュレーションでも交通量はかなり増えるということは間違いないのか。
- ：現状よりは増えると思う。
- ：開通した様子を見ないと判断できないということだったが、それで本当に大丈夫なのか。
- ：詳しくは分からないが、交通量の予測を算出するような方法があるのだろうか。
- ：例えば土・日のゆめタウンの来館者数等を想定した上で、東西南北で割ってみて、北部方面の人が来るルートを計算してみれば、交通量がある程度想定できるのではないかと思う。加えて、この施設の土・日の来館者がどれだけ横断するのかということも考えた時に、自ずと横断歩道を作らないといけない話になりそうな気がする。それを想定であっても計算してみた方が良いと思う。
- ：来館者数も含めて、シミュレーションしないとイケないと思っている。道路の開通によ

ってどのくらいの交通量が想定されるのかということについては、警察や佐賀土木事務所等に算出方法の有無を確認して検討を進めたいと思う。

●：緻密に積み上げていく過程が大事だし、シミュレーションをやってみることも大事だと思うので、よろしくお願ひしたい。それと巨勢川調整池の出入口に橋が架けられているが、将来的に人と車とが共存する形になるのか。

○：今のところ現状のままの計画になっている。先ほどの交通量や利用者数のシミュレーションも進めて行きながら、可能であれば歩道と車道を分けるような形で検討していけたらと考えている。

●：現在の調整池出入口の橋の南側に並行して人道橋を設置してもらおうと、とても良いと思う。可能性も含めて検討していただければと思う。

○：了解した。

●：交差点付近の動線は、人が史跡地にどのようにアプローチしていくのかということと密接に絡んでくる問題である。現在、施設の話ばかりしているが、史跡地との繋がりを考える上では非常にクリティカルな問題だと思う。

●：「植栽予定の主な樹種」に、縄文時代に有用な樹種が挙げられているが、全部、大木になる木ばかりのようだ。それと環境に応じて、樹種を変える必要がある。例えば、実際にある遺跡の整備では、シイ林をつくったところにスギなどいろいろ植えたが全部シイ林になってしまって、目的のスギ林にはならなかったという史跡もある。だから、オニグルミやムクロジは水が好きだし、クヌギやシイ類、クリは乾燥系、それ以外のイチイガシやカヤ、カシなどは中間的で、少し湿っぽいところが好きだったり、周辺環境も考えて植樹しないと何年後かには大変なことになる可能性がある。

もう1つ、郷土種というのはどういうものを考えているのか。

○：確かに現状のプランだと高木が多くて、検討した方が良いと思っているが、ただドンダリ等は活用にも使いやすい有用な樹木であるのため外せないだろう。逆に、剪定をまめにやるなど高木にならないような工夫はできたりするのか。

●：剪定のやり方はあると思う。ただイチイガシなどは非常に自然度の高い木で、あまり剪定すると枯れてしまう。そういう木もあるので、整理、検討が必要だと思う。成長のスピードも樹種によって違う。イチイガシやカヤなどは成長が遅いし、二次林的になりやすい。クヌギやシイなどは非常に成長が早い。

○：それは樹木の性質ごとにエリアを分けた方が良いということか。

●：好む環境が違えばエリアを分けた方が良いと思う。高木になるところが一部アクセントとしてあって、二次林的な樹木はかなり伐採しても大丈夫だと思う。

○：それと郷土種としては、カシやシイ以外に、ムクノキやセンダン、ケヤキなどの樹種をイメージしている。

●：了解した。西日本に多い温暖種である。

●：東側と南側に広場があって、イベントや体験活動をするということだった。イベント等を行う際に、建物の北東隅に倉庫があるが、東側なので通りやすくはあると思うが、この面積で果たして足りるのかどうか。下手をすると、仮設倉庫のようなものがいっぱい建つことになるのではないかという懸念があるがいかがか。

○：外エリアの倉庫については、恐らく芝刈り機なども必要になったりするだろうから、北東側の一角に後付けで、物置等を設置する必要が出てくるかもしれない。

●：了解した。あまり派手なものを設置しない方が良さだろう。また、イベントの際に、食べ物を売るキッチンカーなどが入ってくるかもしれないが、イベントではない時に、キッチンカーなどが営業したいということがある場合はどうするのか。つまり平日のお昼など、そうなる建屋内で営業しているカフェの業者が困ると思うが。ただ、東京などでは、店は閉まっているが、キッチンカーなどがあつたりして、近くにベンチでもあれば利用しようという気持ち起きるので、来てもらえるかどうかは別として、そういう営業時間を考慮して受け入れるのか、それとも全く排除するのかどうかで運営面も大きく変わってくると思うがいかがか。

○：それは運用面になってくると思う。カフェの運営についても、今後の検討課題にはなっている。キッチンカーもコロナ以来、大分増えていて、それがいつまで続くか分からないが、どのぐらいの需要があるのか、カフェも含めてサウンディングなどを行っていく必要があると思っている。

●：ぜひ検討してほしい。また、今当たり前になっているが、イベント会場内でWi-Fiがどこまで対応できるか、多目的室だけではなく、いろいろな場所でそれを発信したいという場面が出てくるかもしれないので、予算等の問題はあろうと思うが、ぜひ充実させてもらいたい。

それと、サステナブルという話があったが、例えばこの建物を運営するのに一体どれくらいのコストがかかるのか、簡単に言うと電気代や水道代、そういう意味で屋根にソーラーパネルを付けたりすれば、まさにサステナブルを実践でやっているという象徴にもなると思う。運営コストがかなり高額であれば、サステナブルと言っているけど全く受け入れられないものになってしまう。「建物でもこういう工夫をしているますよ、何時以降は電気をこれくらい消しますよ」など、実際そういうことをやっている、サステナブルな活動をやっているということを示さないといけないと思うので、建築に当たって何か工夫ができること、それから運営に当たって工夫ができることなどを検討いただきたいと思う。

○：了解した。検討していきたい。

●：屋上の東側は空いているのか。設備にかかる経費と、その他いろいろコストがかかるかもしれないが、スペース的には空いているという理解で良いか。

○：はい。

●：サステナビリティはとても大事な視点だと思う。どこかでそういう点においてもエネル

ギーの削減にトライしているのだということを可能な範囲で、しっかり姿勢として示していくということが大事だという指摘だったと思う。

- ：樹木に関する事だが、調整池周辺はあまり木の育ちが良くないという話を聞いたことがあるが、この場合はどうなのか、何か同じような影響があるのか。
- ：調整池北東隅に植樹されている「縄文の森」は、土手が固めてあって、全く水の浸透性が無い場所の上に土が被せてある状態なので、非常に表土が浅い。乾燥すればずっと乾燥するし、雨が降れば急激に水を含む状態になる。基本的に乾燥状態になるので、例えばシイなどは残っているが、オニグルミなどの水を好む樹木は細ってしまって、枯れてもおかしくないという状態になっている。
- ：今回の施設は、それなりの土壌で対応するから、うまく育つだろうということか。
- ：その見込みである。
- ：それだったら安心した。2点目は、多目的室やラウンジの椅子の並べ方を見て、どういうふうにご利用されていくのかイメージが湧きにくい。多目的室は、くっつけたり外したりできる机で、合わせたら丸い机になる感じだが、それは使い方をシミュレーションしてこの提案になっているのか。
- ：ここは基本設計の初期の段階で体験活動を主に行う場所という方向で進めていて、その後、机の配置があまり変わっていない状況である。机の形は、教える側と教わる側が対面でやりやすいような形になっている。この机の配置についても具体的に検討し直さないといけないとは思っている。
- ：1/4 円のようなテーブルがうまく機能するかどうかは良く分からないが、多目的室でどういう活動をするのかをきちんと吸い上げて、その時にどういう設備が必要なのか、そこは検討を続けていただく必要があるかと思う。設備関係の実施設計としてこれで良いのか。
- ：一応、什器関係は備品で購入することになっているので、建築設計で行う予定ではないが、ただ、具体的なイメージは検討しておかないといけないと思っている。
- ：場合によっては、それによって必要な建築設備が出てこないとも限らない。例えばスクリーンなどを入れるとしたら、埋め込みや電源の配線など、いろいろ必要なものが出てくる。どこに電気を通した方が良いとか、そういういろいろなことが出てくると思うので、本来だったら実施設計でそこまで反映しておくべきだと思う。
- ：配線関係の配置はある程度決めている。
- ：後になって、本当はここにあった方が良かったということも無いわけではない。実施設計はほとんど終わりの段階なので、修正ができるタイミングであるのかどうかは良く分からないが、少し気になった。
- ：多目的室は、いろいろな場面に応じた使い方をしたいと思っているのでプロジェクターや音響機器関係は固定ではなく、可動式で考えている。これらは備品で整備する予定で、

どこに置くかなど想定して設計を進めている。

- ：そういうのは後で付けることもできるが、先に仕込むことができれば露出しないでも済んだりする。
- ：スクリーンボックスも、ある位置にスクリーンを備品でつり下げることが想定して準備はしている。
- ：考古ラボやキッズコーナー、ラウンジの辺りも全部備品対応で行うのか。
- ：資料としては提示していないが、ある程度想定して進めている。
- ：大学で授業をしているが、プロジェクターは良くない。プロジェクターやめた方が良いと思う。最新式の良いものが発売されるが、使っているうちに画像が悪くなっていく。可動式の大画面テレビを買った方がクリアだし、広さにもよるが、最大の大きさのものを2台くらい設置すれば何とかかなと思う。固定式のプロジェクターほど扱いにくいものはないと思っている。
- ：固定式では考えていない。
- ：こういう機器もプロジェクターの時代は終わるのではないかと思う。直接つないでクリアな画面を見せた方が良い。
- ：これらは備品で整備するので、良く考えて、実勢に合わせたものを購入したいと思う。
- ：遮光はどうなっているのか。
- ：ブラインドを設置している。
- ：完全に暗くなるのか。
- ：暗転はできない。
- ：それでは、プロジェクターは厳しいと思う。
- ：今から変えていける部分と、もう後戻りできないという部分があると思うが、設備で対応していける部分、什器で対応していける部分、そして今回の施設でどうしてもやっておかなければいけない部分、その辺をもう一度点検をしていただくとよろしいかと思う。
- ：施設前広場はどういう位置づけなのかということと、体験広場、イベント広場、施設前広場の地面はどんな状態にする予定か。
- ：施設前広場はインターロッキングと言って、ハードな舗装にする予定である。
- ：施設前広場はどういう位置づけにしているのか。
- ：キッチンカーなどの乗り入れが簡単にできるようなイメージで考えている。
- ：イベント広場とどう違うのか。
- ：イベント広場と体験広場は芝生広場になっている。
- ：キッチンカーを乗り入れるのは、インターロッキングのところまでと想定しているということか。
- ：そのとおりである。
- ：植栽で仕切られているので、イベントを運営する上ではやりにくいと思う。なるべく低

木にするとか、可能な限り樹木などは減らした方が良いと思う。

○：この図には多くの樹木を記載しているが、今後、少し間引いたりして変更しようと思っている。

●：イベントをする際に、キッチンカーだからある程度完結はするが、やはり運営の時に楽なのは水場があること、洗い物などができると、水の供給が受けられること、それから外で電源が取れること。可能なら、1か所か2か所ぐらい業務用の水圧が強めのものが欲しい。それからテントの使用を想定して、固定できるフックなど、そういうものが地面に少しだけあるとものすごく楽になる。風が5メートルを超えて吹くと、テント系のイベントができなくなる。それがあるかないかで、イベント運営がものすごく楽になるので、考えておいた方が良いと思う。

○：了解した。

●：利用者側からの視点として、やはり大事なのは居心地の良さだと思う。イベントに行つて、キッチンカーで買った後にどこで食べたら良いか、なかなか困るので、ベンチの置き方や木陰のつくり方など、そういうことも十分配慮してほしい。

○：木陰の作り方やベンチの設置など、具体的にイメージしながら検討していきたいと思う。

●：図中にカフェ・ショップと記載されているが、これがミュージアムショップになるのか。

○：カフェの右隣がショップのイメージである。

●：学生達を博物館に連れて行くことがあるが、ミュージアムショップは人気がある。そこにはガチャポンがあって、学生は必ず買う。そういうこともリサーチしていただいて、魅力的なショップにできるよう今後検討してほしい。

○：他の施設の状況も見ながら、ワーキンググループなどでもそういったことについて話していきたいと思う。

(5) 東名遺跡屋内展示実施設計について

【資料5を基に説明】

【質疑応答】 ●…委員 ○…事務局 ■…オブザーバー □…助言者 ▲…関係機関

●：遺跡を見に行きたいと思わせるような展示を考えた時に、「この遺跡は地中深く、水中深くにあるんだ」というところを見せる工夫はできないか。5メートルは無理かもしれないが、実際の海水面や地面の深さを感じられるような、難しければ絵や図でも良いと思うが、現地のスケールを感じられるようなものが欲しい。そうしないと、この遺跡が単なる貝塚遺跡になってしまうような気がする。しっかり展示解説を読めば分かるかも知れないが、それを肌感覚で感じられるような部分を考えてほしい。

もう1点は、東名遺跡の場合、展示を見ていると色がなく暗い感じがするし、展示室自体も暗い。例えば貝輪にしても、元々はもっと美しかったはず。そういったものや食べ物にしても、ある博物館に行った時に、鯛やいろいろな野菜とか、実際食品サンプルみたい

に展示してあって、「わー、すごいな」と思ったことがあった。イラストで描いてあって、部分的に鯛だ何だを書いてあってイメージが湧かない。食としてパッと見る時は、一斉に食材が色鮮やかに盛ってあるような、これを注文しようかと思うぐらいの工夫ができないか。本物の展示は難しいが、できるだけ模型というか、貝輪も腕をつくって、そこに復元したきれいな貝輪を装着するなどして見せることで、元々はこうなのだというイメージを抱かせていただきたい。この2点を考えていただければと思う。

- ：2点目についてだが、先ほどの説明が不足していて、「感性と美」のコーナーで、特に出土した貝製品は白く風化しているので、現生貝で復元品をつくって横に並べて、「元々はこんなに美しいものだったのですよ」という形で紹介したいと思っている。
- ：鹿角製のアクセサリなどはどうか。考古学的にはビューティフルと思うが、一般の方がこれを見て、造形の細かさなどには感心するだろうが、1点でも2点でも復元品があるとイメージしやすいと思う。他のアクセサリにしても検討していただければと思う。
- ：了解した。他のアクセサリなども復元品がつかれないか検討したいと思う。
- ：編みかごも、報告書に掲載してあるような、タテ材、ヨコ材で色を変えて、編み方がよく分かる図を使用したらどうか。あの図はすごく美しい。実物には、なかなかライティングできないだろうから、そういうものでカバーするなどの工夫が必要だろう。どうしても展示が全体的に暗くて、ぼやっとしているイメージなので、展示全体のコンセプトとして、展示室全体を明るくすることはもう無理なのか。
- ：展示室全体を明るくするのは難しいかもしれない。
- ：そうであれば、スポットスポットでビジュアルな、色彩を感じるような展示を工夫していただければいいかと思う。1点目の質問はどうか。
- ：基本設計の初めの頃はそういった展示も考えていた。建物の天井高の部分が幾つかあると思うので、「これぐらい地中に埋まっていますよ」とか、「もともとの集落、縄文人が住んでいた場所はこのぐらいの高さになっていますよ」ということは、工夫して紹介したいと思う。
- ：可能であればということで、サイトにつながる、遺跡に誘うという部分で、そのような高さのあるディレクションというか、そういうものがあると、より誘うことが可能になるのかどうか、検討していただければと思う。
- ：貝層剥ぎ取り展示のところで、お金の問題はありますが、プロジェクションマッピングを当てるかどうか、深さを演出するようなものがあっても良いかもしれない。

それから展示品が地味ということだったが、我々が良くやるのは、素材にもよるが、資料 5-3 に掲載してあるような独立の展示ケースを洒落たケースにすると、それなりに美しく見える。もう1つは、平台ケースの場合、下に照明を仕込むことができるので、そうすると、展示品のたまりのところなどに光が当たる。その他、背景に色味を載せるという、銀座のエルメスを見ていただくと分かるが、ああいうものを背景に置くというのも度肝

を抜くかもしれない。懸念されるのは、平台が多いので、ケースの上面には必ずまぶしさを低減するフィルムを貼らないと上の照明が当たるということと、照明のラインを考えて手前に置かないようにするとか、実際に見る方の反対側から照明を当てるようにしないと影になるので、そういうところも細かいところだが配慮していただければと思う。

内容については、委員会での指摘事項などが採用されて、とても良くなっていると思う。

- ：先ほどの遺跡へ誘うという意見だが、遺跡の場所とガイダンス施設、調整池などの位置関係が分かるものや、史跡現地に行くとどういうことができるかということが展示やパネルで紹介してあると良いと思う。展示室がデザイン空間になっているので、ラウンジの展示になるかと思う。自然とも近い場所なので、花や鳥、どういう生物が見られるかなど、そういう紹介もどこかにあって良いと思うがどうか。
- ：ラウンジでの紹介になると思うが、史跡地は調整池内にあって、自然と親しんでいたくエリアでもあるので、季節的な見どころを写真で紹介したり、特にここは冬になると野鳥が多いので、野鳥を紹介したりというのもあって良いと思う。また、調整池は洪水に備えた防災施設で、SDGsとの関係もあるので、そういった方向の紹介をラウンジでうまく展開できたらと思っている。
- ：資料の内容を見て、「もしかして今より豊かなくらしをしていたかも？」というフレーズの想像がつかない。今より豊かなくらしと言われても、そうかなとってしまうのは自分だけだろうか。
- ：みんな思っていると思う。心の豊かさかなと思うが。
- ：どうやって表現するのだろうかと思いながら見ていた。それから「今を考える」というコンセプトではあるが、今はこんなに贅沢かというふうに思うかもしれないし、どういうふうに何を伝えるのかということが、ここに書いてあるコンセプトにダイレクトにつながるか想像できなかった。
- ：見学される方それぞれ、多分考え方も違うし、思っていることも違うと思う。みんなが同じように、縄文時代が本当にこれで豊かなのかなと感じる人もいれば、すごく自然を巧みに利用して、8000年という古い時代ではあるが、いろいろな工夫をして自然と一緒に生きてきていて、精神的には意外に豊かな人たちだったと思う人もいると思う。
- ：8000年前に、こんなすごいことをしていたということは共感できるが。
- ：例えば、和食がユネスコ無形文化遺産に登録されて、世界的にも注目されているが、季節の食材をおいしくいただくという点で、その出発点は自然とともに暮らしていた縄文時代に求めることができるのではないかと、言ったことであったり、擬音語について、自然を音に例えるような言葉で、外国語には無い日本語独特なもので、その起源も自然とともに暮らしていた縄文時代に求めることができるのではないかとも言われているので、そういったエピソードを紹介すると、日本人の自然に対する心というものが縄文時代からあったのだと感じていただいたりするのかなと思っている。

- ：展示エリアに入ってきた時にインパクトを与えることを考えると、そこまでお金をかけられるかどうか分からないが、導入エリアの最初のAのところとで、映像で当時の様子を再現した映像などを流すことはできないか。
- ：予算の面もあるが、映像だと少し誘導的になるようなイメージがあるので、イラストなどで紹介した方が柔軟ではないかと思っている。大きくは予算面が大きい。
- ：最近では観光庁などで、映像制作費などの補助もあったりするので、そういうものを利用されたらどうだろうか。子どもたちなどに、導入部分でインパクトを与えるようなことができないかと思ったので聞いてみた。
- ：今の話だが、1度演出する立場の人に相談をした方が良いと思う。自分は考古学の専門ではないので、最初の展示の部分がすごく美しいのかどうかと言われると、正直分からない。そうであれば、それがどう美しいのか、どう貴重なのか、「今」という部分でいくなれば、今のデザインをやっている人たちにいろいろな意見を伺ってみてはどうか。今回の施設は、専門とか、本当に歴史が好きの人だけが来るわけではないという前提で計画しているはずなので、そういったものまで組み込むべきではないかと思う。今のままだと正直、専門的なことを知っている人が「おおっ」と言っても、そうではない人が来た時は、「ふーん」で通り過ぎて終わりそうな気がする。そういう意味で、ストーリーなどをしっかりとつくっていく演出、例えば音の問題とか、雰囲気っていろいろなものでつくっていけると思う。そこはぜひ、もう一ひねりというか、もう一押しというか、もう一フォローしていただけないかと思った。

もう1つ気になっているのが、これは施設の根本になるのだが、最後の資料に「周辺案内」とあるが、これはパンフレットを置いておけば済む話だと思う。一番提案したいのは、佐賀市には正直観光ルートがない。水をテーマにした時に、今回の遺跡が一番上手にある遺跡になると思う。ここから石井樋があって、古賀銀行周辺のクリークがあって、そして佐賀城があって、三重津海軍所跡があって、ひがさすがあるという、本当に水で繋げられるルートがある。佐賀に来た人たちが観光をする時の入り口にしてしまえば、遺跡だけに興味がある人ではなくて、観光で来る人たちも巻き込めると思う。先ほどお土産の話も出ていたが、東名遺跡だけのお土産を作るのは結構限界があると思う。ところが、古賀銀行辺りだったり、佐賀錦や肥前びどろなど、三重津海軍所跡だったら関わってくると思う。そういう商品開発までした上でお土産を作っていけば、そのプロダクトを置く際にいろいろな幅も広がる。それと、お土産を作る時は、当然ロットがさばけるかという問題が出てくる。この施設だけでさばくのは多分限界だと思う。そういう意味で、この施設は確かに東名遺跡の施設ではあるが、同時に、他の部署や観光課などとの関連はあるだろうが、佐賀市の観光の1つのポイント、できれば入り口になるような位置付けをした方が良いと思う。そうすると「周辺案内」は、むしろ佐賀市の、例えば水のストーリーやいろいろなもので出していくガイドンスの位置付けとか、そういうのを持たせることでお客さん

の幅を増やす、いろんな展開の幅も増やすというところまで検討された方が良いと思う。

(6) 今後のスケジュールについて

【資料6を基に説明】

【質疑応答】 ●…委員 ○…事務局 ■…オブザーバー □…助言者 ▲…関係機関

※質疑なし

- ：かなりタイトな議論だったが、今後やっていく中で、さらに多くの課題も明らかになってくるかもしれない。いただいた意見の中で実施できる事柄、あるいは実施設計に盛り込める事柄と、運用の中で検討していくべきものが何なのか、そのフォローアップをどうしていくのかというようなことについても、今日の会議の成果としてまとめていただきたいと思う。

最後に文化庁からコメントをいただければと思う。

- ：委員の方々はじめ、皆様の闊達な議論、検討が適切に踏まえられている状況を確認させていただき、非常に心強く思っている。

文化庁としても、「歴史生き生き！」という史跡総合整備活用の補助金等を佐賀市に活用いただき、この史跡の価値の顕在化、そしてより一層の保存と活用の推進に向けて尽力されている、この中で大きなプロジェクトが、今いよいよ実施設計という形で具体化していっているところを確認させていただいた。当然、部分的にこれから詰めていかなければならないこともあるかと思うが、サイトミュージアムとして現地と良い形で紐付くような機能を果たす施設であってもらいたいと思っている。

今後東名遺跡の保存と活用について、皆様のご協力をいただければと思う。

- ：どうもありがとうございました。今後ともご指導等をよろしくお願ひしたい。

それでは議事を事務局にお返しする。

- ：本日の会議はこれで終了させていただきます。長時間にわたり、どうもありがとうございました。